

7月・8月の主な研修

【動画】：開始日(10:00)終了日(17:00)以外は、24時間視聴可能

詳細は、研修センターホームページ、公式X、メール情報便等でお知らせします。

- 【動画・集合】ケアマネジャー研修 1実践力向上【現任】「事例演習」R8.6.23(火)10:00~R8.8.17(月)10:00 講師:江口 志乃氏 R8.7.14(火)14:00~17:00 R8.8.17(月)14:00~17:00
- 【動画】令和8年度 感染症対策研修(公開講座)「保健所から学ぶ!健康につながる3つの話」R8.7.1(水)~R9.3.31(水) 講師:世田谷保健所職員
- 【集合】対人援助技術研修「利用者・家族とのコミュニケーション(応用)」R8.7.8(水)14:00~16:00 講師:諏訪 茂樹氏
- 【動画】サービス提供責任者研修(新任)「サービス提供責任者のしごとを学ぶ」R8.7.10(金)~8.10(月) 講師:芳村 裕子氏
- 【集合】ケアマネジャー研修【リーダー】「スーパービジョン基礎編」R8.7.10(金)13:30~16:30 講師:渡部 律子氏
- 【集合】介護技術研修【現任1】「作業療法士直伝!介助者も利用者も楽になる移乗介助」R8.7.10(金)18:00~20:00 講師:藤本 祥多氏
- 【集合】高齢・障害者支援力向上Sofuku講座「生活環境モニタリングと支援のコツ」R8.7.14(火)14:00~16:00 講師:関 典子氏、紫尾田 リエ氏
- 【集合】対人援助技術研修「家族支援について学ぶ」R8.7.15(水)13:30~16:30 講師:山川 誠司氏

- 【ライブ】信頼関係を築くための接遇・マナー向上研修「福祉職が身につけたい言葉づかいと電話応対」R8.7.16(木)14:00~16:00 講師:蜂谷 英津子氏
- 【動画】クレーム対応研修「地域でよく出会うコミュニケーション困難なケースの対応」R8.7.17(金)~R8.8.17(月) 講師:向山 晴子氏
- 【動画】認知症ケア研修 支援力向上「認知症の人と家族への支援」R8.7.24(金)~8.24(月) 講師:河合 靖子氏
- 【動画】ケアマネジャー研修【共通】「世田谷区の組織と社会資源」R8.7.24(金)~R8.9.7(月) 講師:世田谷区職員等
- 【動画】災害対策研修「迷わない初動へ」R8.8.17(月)~R8.10.16(金) 講師:後藤 武志氏
- 【集合】認知症ケア研修 支援力向上「認知症ケアにおける多職種連携によるチームケア」R8.8.19(水)14:00~17:00 講師:荒川 珠世氏
- 【動画】食支援研修(栄養・調理)「高齢者の脂質のとおり方」R8.8.24(月)~R8.9.24(木) 講師:村上 奈央子氏
- 【動画】人権の理解促進研修「ハラスメントの防止」R8.8.25(火)~R8.9.28(月) 講師:横田 由紀子氏
- 【集合】福祉・医療職が学ぶリーダーシップ研修「スタッフを育てるリーダーシップI」R8.8.25(火)14:00~16:00 講師:諏訪 茂樹氏

せたがや福祉区民学会第18回大会 発表事例募集

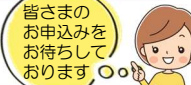
せたがや福祉区民学会は、区内大学、事業所、区民、行政が参加する全国的にもユニークな学会です。この機会に、日頃の実践や研究等に関する事例を発表してみませんか。

第18回大会 発表事例募集

- 【申込期間】令和8年7月15日(水)~令和8年8月14日(金)
- 【募集内容】世田谷区内で行う福祉活動に関する研究、実践活動、調査等に関すること
- 【応募資格】せたがや福祉区民学会会員(会員募集中)
- 【申込方法】せたがや福祉区民学会事務局までメール・FAX・郵送

第18回大会 開催案内

- 【大会テーマ】「共に考える『困難』への向き合い方」
- 【日時】令和8年12月13日(日)12時~17時30分(開場11時30分)
- 【会場】昭和女子大学(世田谷区太子堂1-7-57)
- 【基調講演】「だれもが幸せになる権利がある ~福祉職は『困難』にどう向き合うか~」
渡邊 美代子氏(一般社団法人コットンママ代表)



皆さまのお申込みを
お待ちしております

せたがや福祉区民学会
学びあい 広げよう せたがや福祉の輪
【真に実る『困難』への向き合い方】

第18回大会 発表事例募集
令和8年7月15日(水)~令和8年8月14日(金)

1. 2次、3次発表(20分) 2. 質疑応答
3. 懇話会(15分) 4. 表彰式(10分)
5. 懇話会(15分) 6. 懇話会(15分)
7. 懇話会(15分) 8. 懇話会(15分)

18回大会 開催案内
令和8年12月13日(日)12時~17時30分
昭和女子大学(世田谷区太子堂1-7-57)
講師 渡邊 美代子氏
「だれもが幸せになる権利がある
『困難』にどう向き合うか~」

TEL: 03-6379-4281
FAX: 03-6379-4281
E-MAIL: souden@setagaya.or.jp



福祉のしごと相談

研修センターでは「福祉のしごと相談」をお受けしています。相談無料、匿名OKです。ひとりで悩まないで、気軽にご相談ください。

★福祉のしごと はじめて相談
相談日: 月~金 9:00~16:00
方 法: 来所・電話・メールで

★福祉のしごと 悩み相談
●面接相談 毎週木曜日 ①18:30~ ②19:30~
●メール相談 soudan@setagaya.or.jp

発行: 世田谷区福祉人材育成・研修センター
〒156-0043 世田谷区松原3-7-10
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階
電話: 03-6379-4280
FAX: 03-6379-4281
HP: https://www.setagaya-jinzai.jp/

世田谷区福祉人材育成・研修センター

じんざいくん便り

令和8年6月 第37号



介護の仕事 魅力発信! KAIGO PRIDE @ SETAGAYA 2026 ポートレート・動画作成中!

KAIGO PRIDE @ SETAGAYAは、世田谷区内の事業所で働く介護職をモデルにしたポートレートや動画を通して介護の仕事の魅力を発信するプロジェクトです。

世界的クリエイターが描く介護の真実

“熱き思いを発信したい!”

モデルの皆さんの「介護の仕事を選んだ理由」「介護の仕事の魅力」「心に残っているエピソード」をお聞きし「最前線で活躍する介護職の皆さんの仕事に対する『熱い思い』を広く伝えたい」とマンジョット氏。ポートレートに二次元コードを付け、モデルのメッセージを配信します。

【マンジョット・パティ氏】一般社団法人KAIGO PRIDE代表理事。インド・ニューデリー出身。国内大手企業のブランディングや伊勢神宮などの日本の魅力発信を手がける世界的なクリエイティブマンジョット氏 ディレクター。介護の仕事の魅力を描く短編映画「もう一歩」を監督

介護の仕事の魅力を介護職が語る! 介護職の内面の輝きと誇りを引き出す

撮影を通して何気ない会話の中から、介護職の内なる想いが引き出されていきました。

◎ モデルの声

「インタビューで介護の仕事の意義について、自分に向き合う貴重な機会となった。これからは多くのことを学びながら、**自分自身をより成長させ、周りの人の役に立てる存在になりたい!**」

「SNSで介護の魅力を伝え、**介護を目指す若い世代を増やしたい!**」

「人生の最期まで安心して任せられる介護を提供し、その経験や想いを発信して**介護のイメージや評価をより良いものにしていきたい!**」

介護の仕事の**“魅力”“夢”**について**“熱い思い”**が伝わってきました。

働いている姿...動画の撮影

9月初旬に公開予定!

次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画素案シンポジウム(世田谷区主催)で、KAIGO PRIDEのポートレートや動画を公開します。開催日時会場等は、区のおしらせ8月15日号にて周知されます。お楽しみに!

楽しく、初めの1歩 手話カフェ

毎月第2金曜日 午後2時~3時 研修室A

手話を初めて学ばれる方を対象に手話カフェを開催しています。世田谷区聴覚障害者協会の方を講師に迎え、初めての方や継続して参加される方、20代~80代の幅広い年齢の方など、毎回、多くの方にご参加いただいています。

講師と手話通訳の方の絶妙なやりとりを通し、和気あいあいとした雰囲気の中、手話を通し「福祉の心」を学んでいます。手話カフェをきっかけに、新しい出会いや、交流も生まれ、世田谷区の手話講習会を受講するなど、ステップアップをされる方もいらっしゃいます。

手話に興味のある方のご参加をお待ちしております。

<参加者の声> 「なかなか覚えられないけれど、とても楽しく学んでいます。」
「少しずつ覚えていこうと思います。」
「色々な表現を生活の中で使っていきたいです。」

研修ピックアップ

【集合研修】「地域でよく出逢うコミュニケーション困難なケースの対応」

～状態像からの気づきと対応で困難事例？に向き合おう～

開催日時 令和8年5月25日(月) 14時～16時

受診拒否や医療機関連携に悩む「**困難ケース**」をテーマに、事例を通じて「**見立て**」の視点を広げ、具体的な「**手立て**」、等身大の生き方を支える「**限界設定**」などを学びました。

講師：向山 晴子氏
世田谷保健所長・医師

1. 自分の相対対応の「癖」を知ろう

- 組織・個人の限界を超えて、必ず何かをしなくてはならない、相手の要求を満たさなければ、**支援者失格と思いついでいる。**
- 過去のインパクトのある事例のイメージに縛られすぎている。「**自分だけが彼、彼女を救える**」**と思っている。** など

2. コミュニケーションの三類型

攻撃型	●相手の犠牲に成り立つ主張 ●実は防衛的で自分も「満たされない」
非主張型	●明確に拒否できず「曖昧」不正直 ●相手を恨む、後悔、心身の不調
アサーティブな対応	●各々を認めつつ、互いに率直な主張 ●非指示的、共有ポイントが見つかる

3. ちょっと待った！何が困難？理解することが第一歩

- ケースと支援者の関係性「**率直に聴くことも大事**」
- **家族間や関係機関の利害が対立**している。
- SOSを発信してくれない。「**ノー**」を言ってくれない。
- 自分が提案したサービスに繋がらない・続かない。
- 今できることと、こうして欲しいギャップが大きく開き、本人と「今」を「共有」することが難しい。
- 組織内・関係機関・団体の情報の集約・共有・方向が調整困難。⇒ **魔法の言葉「誰が何に、困っているの？」**

◎ 訂正困難な思い込みがある場合のポイント

- 妄想自体の訂正は無効なばかりか、**関係性の破綻**につながりかねない。
- 妄想内容には**傾聴**のうえ、当事者の置かれた苦境には、**共感**を示す。
- 妄想に基づく行動反応は**やんわりと制止**

◎ 病状が不安定な場合のポイント

- まず、本人の訴えに耳を傾け、本人がおかれている**環境・感じている気持ち**を察する(言葉・態度)。
- **議論・論争や解釈は避け、簡潔な言葉を返す。**質問は短く、明快に。
- **安心感と、現実的なメッセージを送る。**(心配だから・・・主治医や相談機関に相談してみた？(今日は、もう休みましょうか・・・))
- 栄養と服薬は大切。「辛さ」に焦点をあてた関わり。**妄想は受け止めてから、「やんわり否定」**

◎ 感情が不安定な場合のポイント

- なだめたり、理由をただす様な声かけ自体が、**更なる刺激を惹起する**場合も。
- **時や場所を改める**という方法も一考すべき。
- その場限りの融通をきかす事は後々、**問題を大きく**してしまう。

アンケートより

- 寄り添いすぎも良くないということ、枠組みを持って一貫した対応をすることが大切だと学びました。

4. 「気づき」と「対応」で大事なこと

- スタッフの思い込みは捨てて、「**現実のエピソード**」から、上手くいく対応を学ぶ。
- 支援者、支援機関が分断されないよう注意
- 「うつ」と「うつ病」はイコールではない。
- 修正できないことより、**対応・環境で二次障害を小さくする**(続く障害、でも消える障害?)。
- 「**限界設定**」は、ケースの支援の上でも必要なこと

◎ **こちらのコミュニケーションの工夫が大切**

5. 支援のコツ・ポイント

- 支援には、一定の限界設定も必要。**無理なこと、不当な要求には応じない。**
- 本人が出来ることは、やらせよう。
- 激しい怒り・攻撃を受け流す「**腹の座った支援**」
※一語一句に振り回されない。
- ルール・サービス内容を修正する時は明確に(×メモの活用)
- 他機関・複合したサービスを利用の際は、支援者間の調整・役割分担を明確にし、**統一性を持たせる。**
- 死にたい、眠れない等の訴えは「**気持ち**」を受け止め、不用意なコメント等は避ける。
※**地域等の相談支援機関の活用を考える。**
- できたこと、守れたことは、**ポジティブな評価をする。**
- 自傷・他害・脅迫行為など、「**ためなことはだめ**」起きた事象には常識的に対応。
※**行為を注意＝人としては見捨てない、排除しない。**

6. 医療連携を考えるべきタイミング

- 徐々に病状が悪化し、**健康・生命の危機が予想されるとき**
- 本人の状況が「入院」など展開が変わるとき
※**アセスメントや医療者からの説明のチャンス**
- このままだと、本人の**地域生活の継続が極めて困難と予測**されるとき
- 身体合併症と**重篤な精神症状の併存**があり、支援者相互の連携が不可欠と思われるとき

7. グループワークのグランドルールと進め方

- 他の意見を否定はしない(アサーティブに)。
- 同様の事例の経験を披露しあう場ではない。
- 経験や立場を超えて全員が参加者。

グループワークで留意したい点

- ★ 切迫感(なぜ、そう思うのか?)
- ★ 医療連携を含めて多機関との連携への期待と自身の役割(限界を含めて具体的に)
- ★ 本人との接点、課題と同時に「**ストレングス**」
- ★ 本人に伝えるべき言葉、組織対応
- ★ スタッフのケア、あなた自身のケア

【動画研修】申込締切：7月14日(火)

〈視聴期間〉令和8年7月17日(金)～8月17日(月)

令和8年度 対人援助技術研修 特集！

【集合研修】「多職種連携を支えるコミュニケーション技法」 ～心理的安全性がチームを変える！～

開催日時：令和8年5月18日(月) 13時30分～16時30分



講師：土屋 典子氏
立正大学社会福祉学部 教授
安心づくり・安全探知アプローチ研究会共同代表

職種間の協働・連携の難しさの原因を紐解き、チームミーティングを通して、コミュニケーションやチームづくりのスキルを学び、心理的安全性への理解を深めました。

多職種連携が難しい理由

- ①複雑な課題をもつ事例のそもそもしんどさ
- ②支援者の世代の違い・個性の違い
- ③支援者の所属する組織機関の文化の相違
- ④専門性の違い

相手の言葉の背景への理解が協働の突破口となる

相手の知識・技術を引き出し、余計なことには目をつぶる。

チームづくりに必要なスキル

- ①目標の一致：「見通しの共有」
- ②貢献意欲：「それぞれが何をするか」の共有
- ③コミュニケーション
・率直に意見を言う
・協働する(ワウンドンポジション)
・試みる
・省察する(評価する)

心理的安全性が大切

- ①職場によい/肯定的なコミュニケーションが生まれる
- ②ケアチームに信頼感、支え合いの文化が生まれる→SOSが支えられる
- ③十分な情報が集まり、適切な支援方針が話し合えるようになる
- ④本当のチームが生まれる

心理的安全性 みんなが気兼ねなく意見を述べることで、自分らしくいられる文化

「ちょこっとカンファ」の活用

- ①職場の中で簡単にできる
- ②できていることに着目して、解決を思考する
- ③チーム内でよい関係が形成される
- ④ケアの質が向上する

ちょこっとカンファ 解決志向アプローチを活用した対話型ケアカンファレンス技法

コミュニケーションの技法

- ①対話を始める下準備
 - ・対象者を知る
 - ・良い場所、時間、時間帯の吟味
 - ・呼吸を整える
 - ・良い表情をつくる
- ②わかりやすく伝える
 - ・テーマ、状況、
 - ・これまでとの変化や比較
- ③良い聴き手になる
 - ・体で聴く(手を止める)
 - ・膨らませる(うなずく、それで?)
 - ・確認する(あいまいなことは〇ですか?)
 - ・即答は避ける(ひと呼吸おく、上司へ確認してから)

アンケートより

◆多職種連携でそれぞれの立場からの捉え方や困難な場合の対応、対話、共通目標からの進め方など勉強になることばかりでした。

【集合研修】「利用者・家族とのコミュニケーション(基礎)」 ～「安心」と「信頼」を届ける、最初の一步～

開催日時：令和8年6月3日(水) 14時～16時



講師：諏訪 茂樹氏
東京女子医科大学特任准教授
日本保健医療行動科学会会長

対人援助職にとって、本人・家族と信頼関係を築き、適切な支援をおこなうために、良好なコミュニケーションは必要不可欠です。コミュニケーションの「基本の姿勢」について、ケーススタディを通して学びました。応用編は、7月8日(水) 14時～16時【集合】開催します。

コミュニケーションとは？

- ★メッセージをやりとりして、**共有**すること。
- 正確にメッセージを共有することは難しい。
- なぜなら・・・
言葉だけではない、**語調や表情などによっても、伝えたい意味が異なってしまう。**

メラビアンの法則

- ▲言語(言葉) 7%
- ▲準言語(語調) 38%
- 音の抑揚・強弱・長短
発話のスピード・声の大きさ
- ▲非言語 55%
- 表情
目線・視線
動作・姿勢
空間・装い

初対面では、見た目、しぐさ、表情が重要となってくる。

非バイスティックの7原則

禁句集

- バイスティックの7原則を書き換えてみると、やってはいけないことが具体的に見えてきます。
1. **非・個別化**：皆さん、こうされてますよ。そんなこと言っているの、あなただけよ。
 2. **非・意図的な感情の表出**：冷静に！お静かに！
 3. **非・統制された情緒的関与**：むかつく！私まで悲しい。
 4. **非・受容**：そんなこと言うものではありません。あなたの勘違いよ。
 5. **非・非審判的態度**：自業自得。あなたの自己責任。あなたが悪い。
 6. **非・利用者の自己決定**：つべこべ言わずに、言う通りにしなさい。悪いようにはしないから。
 7. **非・秘密保持**：ここだけの話、あの人は…

アンケートより

- ◆利用者が本当に望んでいる心の奥の気持ちに常にかけて支援にあたりたいです。
- ◆相手に気持ちが伝わるように準言語=語調、非言語=表情に意識を向けて接したい。

